

## ④ 平成 25 年度「自立と体験 4」実施報告

平成 25 年 10 月 24 日

### 学部長251114-6-1

平成 25 年 11 月 14 日

学長 小川 哲生 殿

平成 25 年度「自立と体験 4」実施報告書

「自立と体験 4」担当副学長 佐久間 美智子  
 明星教育センター長 原 田 久 志

学長 小川 哲生 殿

「自立と体験 4」担当副学長 佐久間 美智子  
 明星教育センター長 原 田 久 志

### 平成 25 年度全学キャリア教育「自立と体験 4」実施報告

標記の件ですが、全学キャリア教育「自立と体験 4」実施報告書を下記のとおりまとめましたので、ご報告いたします。

記

1. 平成 25 年度全学キャリア教育「自立と体験 4」実施報告書
2. 【別紙資料】2013「自立と体験 4」教案（第 1 回～第 15 回）

以上

#### 1. 概要

平成 24 年 4 月に開講した「自立と体験 4」は 2 年目を迎え、前期に授業を終了した。平成 25 年度もキャリア教育専門の委託業者（以下委託業者）と共同で授業開発を行い、前年度の課題を改善した。また、各学科を訪問し、内容説明したことでさまざまな学科の学生が履修をし、好評を得ることができた。しかし、今年度の授業を終え、新しい課題も見えてきた。

以下、平成 25 年度「自立と体験 4」の実施について報告を行う。

#### 2. 学科への対応

今年度の開講に向け、前年度末の 2 月、3 月にかけて、学科独自のキャリア教育についてのヒアリングと「自立と体験 3」、「自立と体験 4」の内容説明のため 9 学科および全学共通教育委員会を訪問した。そこで 4 月の各学科の履修ガイダンスで「自立と体験 3」、「自立と体験 4」の学生への周知を依頼し、全学科でチラシを配り（約 4000 枚）、人間社会学科、福祉実践学科、日本文化学科、経済学科、情報学科の 5 学科については、明星教育センター特任・常勤教員が説明を行った。その結果、単位の読み替えを行っている学科以外の履修学生が 48 名増加した。

#### 3. 実施内容

##### 1) 授業内容の改善点

平成 24 年度の見直しに基づき、明星教育センターと委託業者とが協力して、平成 25 年度「自立と体験 4」の教案・教材を改善した。

特に、各回で学生が考える時間を増やすことに重点をおいた。これは、講師が授業進行上、余裕を持つということ、また講師が実際の授業の中で学生に問いかけ、考えさせる時間を取ることで、学生自らが深く考え答えをだすことの成果に繋がったと言える。

##### 2) シラバス

「自立と体験 4」のシラバスは、下記の通りである。

【表 1】平成 25 年度「自立と体験 4」シラバス

回	授業名	内容
1	オリエンテーション	授業全体の概要・取り組み方
2	自分について知る 1	キャリアデザイン
3	自分について知る 2	価値観

4	自分について知る 3	持ち味
5	社会を知る 1	社会への関心
6	社会を知る 2	社会人から学ぶ
7	社会を知る 3	働くことを考えてみる
8	仕事を考える 1	ものができるまで
9	仕事を考える 2	社会で求められるもの
10	仕事を考える 3	さまざまな仕事
11	自分を表現する 1	自分を表現する
12	自分を表現する 2	面接形式に慣れる
13	グループで話し合う 1	ディスカッションに慣れる
14	グループで話し合う 2	ディスカッションを実践する
15	総まとめ	行動計画をたてる

### 3) 教材・教案

教材；履修する学生に「自立と体験 4」の内容や履修に当たってのルールなどを説明する「ガイドブック」を配付した。各回の授業の教材はその都度印刷して配付した。それらの資料を綴じ、保存するためのファイルも配付した。  
教案；別紙資料の通り。

## 4. 授業運営

### 1) クラス編成

3年生前期科目として、14クラス開講し203名が履修した。  
経済学部、造形芸術学部の2学部が学科科目に読み替えの措置をとった。その結果、経済学部84名、造形芸術学部59名が履修をした。また、自由科目として学部学科の指定無しに履修した学生は60名で、内訳は表2の通りである。

### 2) 担当教員

授業担当教員は前年度同様、明星教育センター特任・常勤教員3名、兼任講師1名、委託業者の派遣講師5名の計9名、14クラスを担当した。

【表2】履修学生数・開講曜日時限

学部	人数	開講曜日・時限
経済学部	84名	金曜 5限 (5)
造形芸術学部	59名	火曜 3限 (1)・火曜 4限 (2)
学部学科混合クラス (理工学部、人文学部、情報学部、教育学部、経営学部)	60名	月曜 5限 (1)・火曜 5限 (1) 木曜 5限 (1) 金曜 3限 (3)
全体	203名	14クラス

( )はクラス数

## 5. 実施結果

### 1) 出席率<sup>注1</sup>

出席率の平均は78.0%（昨年度82.5%）で、昨年度よりも4.5ポイント下がった。最も高かったのは第1回目85.5%、最も低かったのは第5回の65.5%であった。

【表3】平成25年度「自立と体験4」出席率

授業回数	出席率(全体)	平成24年度出席率(全体)	授業回数	出席率(全体)	平成24年度出席率(全体)	授業回数	出席率(全体)	平成24年度出席率(全体)	
第1回	85.5	90.3	第6回	79.5	76.7	第11回	74.0	82.3	
第2回	85.0	90.0	第7回	75.0	76.7	第12回	77.5	82.4	
第3回	82.0	81.3	第8回	78.5	81.5	第13回	76.5	82.3	
第4回	79.0	81.0	第9回	74.0	82.1	第14回	79.2	82.3	
第5回	65.5	83.1	第10回	75.0	82.4	第15回	83.5	82.5	
							<b>出席率平均</b>	<b>78.0</b>	<b>82.5</b>

### 2) 単位修得率<sup>注2</sup>

平成25年度の単位修得率は、87.5%（175名）で【表4】「自立と体験4」単位修得率であった。

平成24年度と比べると3.5ポイント低くなっている。「自立と体験4」では、一定レベル以上の授業参加意識、向上意識を高めることを重視した。このことから、履修を中断する学生も出て来たのではないかと思われる。

開講年度	平成24年度	平成25年度
単位修得率	91.0%	87.5%

## 6. 第1回と第15回の学生アンケートからの考察

### 1) 授業評価（質問1～3）

前年度同様、授業への評価はどの項目も非常に高い数値を示している。この授業を受けた学生については、90%以上が満足 of いく授業内容と評価している。

ただし、学生の授業への取り組み（積極性）については67%と低くなっている。

【質問1】あなたはこの授業に出席して、どのように思いましたか？
よかった (64%)、ややよかった (28%)、あまりよくなかった (7%)、よくなかった (1%)
【質問2】あなたは授業にどのように取り組みましたか？
非常に積極的に取り組めた(17%)、積極的に取り組めた (47%)、まあまあ取り組めた (30%)、あまり積極的に取り組めなかった (6%)
【質問3】この授業を後輩にも推薦しますか？
大いに勧めたい (31%)、勧めたい (54%)、あまり勧めたくない (11%)、勧めたくない (4%)

注1,注2 出席率・単位修得率：履修登録者203名のうち、授業に1回も出席していない学生が3名いた。履修者数203名からその3名をのぞいた200名で計算している。

## 2) 個別面談 (質問 4)

今年度は委託業者からの申し出により、講師が一部の学生 (52%) に対して個別面談を行ったが、これに対する学生の評価は受けた学生の 95%の学生が良かったと評価している。

【質問 4】個別面談を受けてどのように思いましたか？

良かった (70%)、やや良かった (25%)、あまり良くなかった (5%)

## 3) キャリア意識、仕事・職業意識 (質問 5～9、11)

キャリア意識、仕事・職業意識については、受講した学生の 80～90%の学生が高まったと回答している。一般に学生は社会に出る事への拒否反応が強い事を考えると、この授業にキャリア意識を高めるといふ効果があることを見る事ができる。

【質問 5】授業を通して自分の生き方を考えるきっかけができましたか？

とてもそう思う (23%)、そう思う (60%)、あまりそう思わない (13%)、全くそう思わない (4%)

【質問 6】働くことを通じて社会に貢献するイメージが作れましたか？

大変そう思う (16%)、そう思う (66%)、あまりそう思わない (16%)、全くそう思わない (2%)

【質問 7】社会にでて働くことの中に、楽しさを見つけられそうですか？

大変そう思う (20%)、そう思う (60%)、あまりそう思わない (19%)、全くそう思わない (1%)

【質問 8】様々な仕事について理解が深まりましたか？

とてもそう思う (18%)、そう思う (57%)、あまりそう思わない (23%)、全くそう思わない (2%)

【質問 9】自分にあった職業を探したいと思うようになりましたか？

とてもそう思う (57%)、そう思う (37%)、あまりそう思わない (5%)、全くそう思わない (1%)

【質問 11】自分にとっての仕事の意味や価値がはっきりしてきましたか？

とてもそう思う (31%)、そう思う (52%)、あまりそう思わない (16%)、全くそう思わない (1%)

## 4) 自立意識、自己理解 (質問 10、12)

自立意識と自己理解についても多くの学生がこの授業を通して理解し発見できたことを示している。

【質問 10】自分で考えて判断することの大切さが理解できましたか？

とてもそう思う (50%)、そう思う (42%)、あまりそう思わない (7%)、全くそう思わない (1%)

【質問 12】自分自身について新たな発見がありましたか？

とてもそう思う (39%)、そう思う (40%)、あまりそう思わない (17%)、全くそう思わない (4%)

## 5) その他 (質問 13 以降)

スキル修得については情報収集で 69%、文章力で 67%とそれほど高い数字ではないが、この授業がスキル、テクニックの修得よりもそのベースとなる社会へ出る事への意識を高める事を考えると、適当な数字と思われる。

卒業後の進路については 50%弱の学生がまだイメージ出来ていないと回答しているが、これ以降キャリアセンターへの接続、キャリアセンターでの支援を受ける事で対処する部分と考える。

【質問 13】情報収集の仕方が身に付きましたか？

とてもそう思う (15%)、そう思う (54%)、あまりそう思わない (27%)、全くそう思わない (4%)

【質問 14】文章表現力が身に付きましたか？

とてもそう思う (19%)、そう思う (48%)、あまりそう思わない (30%)、全くそう思わない (3%)

【質問 15】卒業後の進路について教えてください。

具体的にイメージできている (52%)、まだイメージできていない (48%)

## 6) その他学生の感想

学生の感想を読むと自分を見つめる良い機会となった、社会に出てから役に立つ力がついた、就職や将来について考えるきっかけになったなど、大方授業に対して肯定的な評価である。

## 7. 次年度への課題

1) 「自立と体験 4」は、社会人としての社会人基礎力あるいは意識や行動様式を身につける事が一つの目的である。従って、単に出席率や単位修得率を高めることを目標とするものではない。また、単位読み替えをしない学科の履修者にとっては単位取得のモチベーションにならない。しかも、それらの学生が今後増える可能性が高い。

これらの事を考慮し、途中で履修を中断する事なく継続させるための措置を講じる必要がある。一つは、初回のオリエンテーションで「自立と体験 4」の意味についてしっかり学生に伝える時間をとる事、さらに授業の早い回にチームとしての意識を高めるためのワークを導入する事を考えている。

2) 出席の状況や単位修得率等を見ると、少なくない学生が途中で履修を中断している。1) で「自立と体験 4」は必ずしも出席率や単位修得率を高める事が目的ではないと書いたが、それでも履修を中断する学生の中断理由を調査する事は、今後の授業の設計や内容を検討する上で必要と思われる。

3) 今年度は、前年度の見直しを受けて教材・教案の改善を図った。しかし、実際の授業の様子を見ると、明星教育センターの教員と委託業者の派遣講師では大きな違いがある。昨年度の課題であった、学生が考える時間を増やすという点で、教材・教案の改善は行われたが、派遣講師の取り組みについては十分な改善があったとは言えなかった。学生の反応を見て授業の進め方を変えたり、学生にじっくり考えさせるような、その場での対応を委託業者に求める事は非常に難しいと考えられる。

後期実施の「自立と体験 3」は、昨年度の経験から上記と同様の課題があったため、今年度から授業の企画・運営の内製化を行っており徐々に成果が出てきている。平成 26 年度に「自立と体験 4」を内製化することについての検討が今後の重要な課題である。

4) 最後に、今年度は学科周りをした結果、単位を読み替える学科以外の学生の履修が増したが、今後さらに増やす努力が求められる。多くの学科の多様な学生が履修し、互いに切磋琢磨しながら早い時期に社会に対する意識を深め、自らの道を切り開ききっかけとなる科目に育て上げていきたいと考える。また、多くの学科の学生が履修するよう、広報による働きかけの検討、また各学科の教職員の学生への周知協力を重ねてお願いしたい。